

新年度のスタートにあたって（長崎県サッカー協会技術委員長 長門 祐二）



日頃から長崎県サッカー協会の諸行事に対しまして多大なるご協力ありがとうございます。新しい年度がスタートし、選手もそれぞれ新しいカテゴリーで大いなる希望を持ってスタートしたことだと思います。技術委員会でも2014年開催の「がんばらんば長崎国体」にむけて新たなスタートを切ったところです。これまで以上に皆さん方“サッカーファミリー”とともに

に手を取り合って、選手のレベルアップに努めていきたいと思っています。

そこで今年度の目標を、皆さんと共有していきたいと考えています。今年度の努力事項は次の5つです。

- 1, 競技環境：リーグ戦文化の定着
- 2, 2種年代の指導者の質の向上
- 3, 3種年代の指導者の質の向上
- 4, キッズ年代の充実
- 5, U-12年代の重要性の認識

まず、1つめのリーグ戦文化の定着ですが、4種から2種と各カテゴリーでリーグ戦が盛んに行われるようになってきました。2種では国体U16のチームがU18リーグに参加することによって素晴らしい強化ができています。3種委員会でもトップリーグを軸に県内でリーグ戦化が進んできました。4種委員会では全日本少年サッカーが8人制に移行し、それに伴うリーグ戦が各地で繰り広げられるようになりました。リーグ戦の意義、選手も指導者もリーグ戦を戦うことによって成長していく、というコンセプトの元に、長崎県全体でリーグ戦の文化が定着していけるものと願っています。皆さんの力で九州に、全国に誇れるリーグ戦文化が築けていけるように力を合わせていきましょう！

つぎの2種・3種年代の指導者の質の向上ですが、これまで技術委員会でもトレセン活動を中心に選手の育成に力を注いできましたが、やはり、指導者の質の向上は県全体のレベルアップを考えると重要になってきます。4種委員会では「日本協会のD級ライセンスを取得しないとチーム登録できない」という規則があり、登録しているチームには必ずライセンス取得者がいます。ところが、2種・3種委員会ではそういった規則がないために、登録の全チ

ームの約半数でライセンス取得者がいないという状況です。もちろん「ライセンスを取る」ということが目的ではなくて、「選手に質の高いトレーニングをする」ということがねらいです。今年度は2種・3種の指導者にぜひライセンスを取っていただき、サッカーファミリーとして、長崎の指導者として、ともに手を取り合って、「長崎の選手は、長崎の指導者全員で育てる」といった気持ちで、選手の育成に取り組んでいきたいと考えています。ご協力よろしくをお願いします。

最後にキッズからU12年代にかけての育成強化です。世界的に見ても、キッズやU12の育成は「グラスルーツ」をいわれ、非常に重要な役割を占めています。サッカーに、最初に触れる時期ですので、その時期に指導する指導者はサッカーの楽しさ、面白さ、厳しさや、しつけなど様々なことを経験させていけるようにしたいものです。4種委員会ではリーグ戦開催時に指導者講習会を開催するなどして共通理解を図っているところです。キッズの取り組みも各地に広がりを見せてきています。昨年にはキッズのエリートキャンプも開かれました。今年度もさらにこの年代の育成強化とともに、普及を図っていきたいと考えています。

以上今年度の主な取り組みですが、3月11日に起こった東日本大震災は私たちに大きな衝撃を与えました。サッカーをしたくてもできない多くの人々がいる中で、こうして日々サッカーができる喜びを感じずにはられません。今普段の生活の中でサッカーができることに感謝しつつ、皆さんとともに長崎県のサッカーの発展のために手を取り合って進んでいきましょう。